記入例

平成＊＊年度　〔春夏作・秋冬作〕芝関係除草剤　試験成績書－1

春夏作・秋冬作　どちらかに○をするか、どちらかを消す

実施年度を忘れずに書く

送付された薬剤のボトル・袋などに記載されている番号を記入
市販品の場合は製品番号を記入

薬剤名	ABC－123	剤型	水和
有効成分及び含有率	××× 10%		
ロット番号	XYZ1234		

試験機関	ホールインワンカントリークラブ
担当者名	植調　太郎、牛久　花子
試験圃場名	場内圃場
圃場所在地	○○県◎◎市●●

試験途中に担当者が異動した場合は、前任者名も併記する。

試験目的：雑草発生初期処理での一年生雑草に対する効果薬害の確認

Ⅰ．試　験　概　要

1. 試験区設置場所：No.2ホール　フェアウェイ

2. 耕　種　概　要：

張り芝、まき芝の別
刈高、刈込頻度など

① 芝品種名：コウライシバ
② 栽植様式：ﾌｪｱｳｪｲに準ずる　刈り高 20mm
③ 造成植付年又は植付後年数：10年目

3. 試験規模：1区　2　㎡（1m×2m），3　反復

4. 施肥条件：

処理前1ヶ月～処理後の最終調査時までの施肥状況

	第1回	第2回	第3回
時期(月.日.)	4月4日	.　.	.　.
N・P・K	10・10・10	・　・	・　・
施肥量(g/a)	30g/㎡		

5. 土壌条件

土質・土性	pH	腐植含量	処理時の土壌の乾湿
火山灰土 壌　土	(H_2O)5.81 (KCl)4.92	10.5%	適　湿

目土の時期，性質：10/4、火山灰土 5mm 厚

・乾
・やや乾
・適湿
・湿
等を記入

6. 主要対象雑草の発生消長

雑草名	発生量	発生始期	発生盛期	発生終期
1) ﾒﾋｼﾊﾞ	中	4/中	6/下	7/下
2) ｱｷﾒﾋｼﾊﾞ	中	4/下	6/中	7/下
3) ﾔﾊｽﾞｿｳ	中	4/中	6/上	7/下
4) ﾋﾒﾑｶｼｺﾓｷﾞ	少	4/中	6/上	7/下
5) ｼﾛｻﾞ	少	4/中	6/上	7/下

7. 処理前後の気象状況（処理日を○印，灌水を△印）　　○:快晴　①:晴　◎:曇　●:雨　⊗:雪

項目＼月日	4/25	26	27	28	29	○30	5/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
最高気温(℃)	21.9	23	20	21.1	22.8	21.1	17.6	18	19.7	20.2	23.1	24.4	18.9	21.9	25	24.5
最低気温(℃)	11.5	7	6	6.8	3.8	12.3	10.2	5.8	5.6	6.5	7.4	8.9	4.3	1.7	6.1	10.6
降水量(mm)	3.0	0	-	-	-	2.0	0	0.5	-	-	-	-	-	-	-	0
天候	◎	①	○	①	◎①	●	①●	①	①	①◎	○	①	①◎	①	①	◎①

8. 試験条件に関する事項

病害，災害，気象条件等：処理日の降雨は、未明から早朝にかけてのものである。

栽培管理等：3月28日にバーチカルカット、3月30日に目土を散布。
4月4日に雑草種子を播種し、砂で覆土し転圧した。　刈り込み週1回、刈高50mm。

降雪地帯は、降雪時期、融雪時期を記載する

Ⅱ．試験方法及び試験結果

発生前、発生初期、生育期などを記入し、雑草の葉令が明確な場合は葉令も記入する

A. 試験区：

番号	薬剤名	使用量(g,mL/㎡)	散布水量(mL/㎡)	処理年.月.日.	処理方法	処理時の芝の状態	処理時の雑草の状態	備考
1.	無処理区					芝生育期	発生初期 (ﾒﾋｼﾊﾞ 2.5L, ｱｷﾒﾋｼﾊﾞ 1L, ﾔﾊｽﾞｿｳ 1L, ﾋﾒﾑｶｼｺﾓｷﾞ 2L, ｼﾛｻﾞ 1L)	散布器の機種 肩掛け手押し 散布ノズル ｷﾘﾝｼﾞｽﾞﾙ 展着剤有無 無
2.	手取り除草区							
3.	ABC-123 水和	1.0g	200mL	H**.4.30	土壌処理			
4.		1.0g	300mL					
5.		2.0g	200mL					
6.								
7.	(対) DEF 乳	0.2mL	250mL	〃	〃	〃	〃	〃

対象薬剤は商品名を省略しない

・無処理区の発生が極めて少なく、評価が困難な草種については記載しない
・対象外の雑草であっても評価が出来る草種は（　）書きで記入する
・本数、または重量の調査が出来ない場合は、本数、重量のいずれかでも良い

生・乾　どちらかを必ず記入（○をする）

対象雑草のみの合計を記入する

除草剤　　書－2

B.　雑草関係〔　7月23日調査：処理後 84 日〕　生体重・乾物重　（上段：本数／㎡，下段：g／㎡）

区番号	薬剤名	使用量(g,mL/㎡)	主要対象雑草残草量 メヒシバ		アキメヒシバ		ヤハズソウ		ヒメムカシヨモギ		シロザ		イネ科計		広葉 カヤツリグサ科計		総計	
			本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%	本,g/㎡	%
1	無処理		46	100	15	100	16	100	8	100	5	100	61	100	29	100	90	100
			10.5	100	9.3	100	21.4	100	9.2	100	0.7	100	19.8	100	31.3	100	51.1	100
3	ABC-123 水和	1.0g〈200mL〉	13	28	3	20	0	0	0	0	0	0	16	26	0	0	16	18
			1.0	10	0.5	5	0	0	0	0	0	0	1.5	7	0	0	1.5	2
4		1.0g〈300mL〉	7	15	2	13	0	0	0	0	0	0	9	15	0	0	9	10
			0.9	8	0.3	3	0	0	0	0	0	0	1.2	6	0	0	1.2	1
5		2.0g〈200mL〉	5	11	1	7	0	0	0	0	0	0	6	10	0	0	6	7
			0.5	5	0.1	1	0	0	0	0	0	0	0.6	3	0	0	0.6	1
6																		
7	(対) DEF 乳	0.2mL〈250mL〉	3	7	2	13	1	6	0	0	0	0	5	8	1	3	6	7
			0.5	4	0.2	2	0.9	4	0	0	0	0	0.6	3	0.9	3	1.5	3

発生量が少なく、数値化できないが効果があると考えられる草種については記載する

除草効果に対する所見	対象雑草全般に高い除草効果が認められた。メヒシバ、アキメヒシバの残草がやや目立ったが、生育は抑制され問題になるものではなかった。
効果の高い草種	メヒシバ、アキメヒシバ、ヤハズソウ、ヒメムカシヨモギ、シロザ
効果の低い草種	

薬剤処理後の草丈（刈込直前）や刈草量などを記入する
また、根部の生育等を調査した場合は、結果を記入する

C.　芝関係〔7月　23日調査：処理後84日〕

・生育抑制
・萌芽抑制
・葉色の変化
など、具体的に記入する

	薬剤名	使用量(g,mL/㎡)〈散布水量(/㎡)〉	薬害 症状	程度	生育調査 草丈	重量	刈草量	芝への影響に関する所見
	手取り除草区						31.7g/㎡	コウライシバに対する影響は認められなかった。
4	ABC-123 水和	1.0g〈200mL〉	なし	無			30.4	
5		1.0g〈300mL〉	なし	無			31.1	
6		2.0g〈200mL〉	なし	無			33.6	
7	(対) DEF 乳	0.2mL〈250mL〉	なし	無			29.8	

薬害が発生した場合は、その回復状況も記入する

D.　総合評点

	薬剤名	処理時期	使用量(g,mL/㎡)	散布水量(mL/㎡)	除草効果	薬害程度	総合評価	判定
3	ABC-123 水和	芝生育期 雑草発生初期	1.0g	200mL	極大	無	A_0	○
4			1.0g	300mL	極大	無	A_0	○
5			2.0g	200mL	極大	無	A_0	○
6								
7	(対) DEF 乳	〃	0.2mL	250mL	極大	無	A_0	

Ⅲ．1　考察，実用化に対する所見，今後の研究課題等

一年生雑草に高い除草効果を示し、コウライシバに薬害が無いことから、雑草発生初期の土壌処理で実用性があると考える。

2　実用化に対する使用基準（実用化可能と判定される剤について記入）

薬剤の実用性や問題点等について使用者、指導者の立場から言及する

処理方法	対象雑草	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
土壌処理	一年生雑草	芝生育期 雑草発生初期	1.0～2.0g/㎡ 〈水量200～300mL/㎡〉	火山灰土壌土	

総合評点で「○」と判断した場合は、使用基準を作成する